

😊 気になる あ の 言 葉



箸作り😊

ほとんどの活動で初日に行っている箸作り。今では竹を使うことが多いですが、場合によってはヒノキやスギを使ったりもします。

まず、一本の竹を子どもたちの目の前で割っていき、そこから一人ひとりにわけていきます。こうすることで「さあ活動が始まるぞ、この一本の竹のようにお互い助け合って一致団結していこう!」という仲間意識を伝えていきます。

他にも、活動中は自分で作った箸を使って食事することを説明し、物を大切にすることを育んだり、刃物の安全な使い方や危険性、物を生み出すことの面白さなどを伝えたりすることができる活動です。

出来上がった箸はまさに千差万別ですが、実は出来栄えなどはどうでもいいのです。得意げに自分の箸を見せてくれる子、時間ギリギリまで没頭して削る子、他の子を手伝ってくれる子、最後の片づけを一生懸命やってくれる子……その一人ひとりの姿が大切です。

「たかが箸作り、されど箸作り」なのです。

😊 月見草

育てる会の夜の活動では、大きな火を焚いて歌をうたったり踊ったりといったことはあまりしません。普段電灯の明かりに慣れている子どもたちにとっては、真っ暗な山間の夜はちょっと不気味かもしれません。しかし、そこには息づく動物がいて、見上げれば満天の星空があるのです。まさに本物の夜の自然を子どもたちに体験させることができます。

月見草の観察も夜のプログラムの一つ。夏になるとどのセンター周辺にも咲いており、夕刻じっと座っていると、ある時突然花がぱつとひらきます。ひらく瞬間のわずかな「ポツ」という音を聞くために目を凝らす子どもたちは、昼間の“動”とは違う“静”の姿で感動的でさえあります。

都会にも月見草は咲いています。今度ご家庭でも足を運んでみてはいかがでしょうか。



やまびこ挨拶

活動中はなるべく決まった時間に起床し、子どもたちの体調を観察したり、適度に体を動かしたりする朝のつどいを行っていますが、この時に必ず行うのが「やまびこ挨拶」です。

山々に向かってみんなで声を揃えて「おはよーございまーす！」とお腹の底から大きな声で挨拶をします。大きなやまびこが返ってくると子どもたちも大喜びで、みんながとても気持ちよくなります。

実はこの時に大切にしていることがあり、それは出来るだけ「同じ時間と場所」に立つということです。自然は常に変化していますから、晴れの日の眩しさ、雨上がりの萌え立つような草の匂い、鳥や虫の声など全く同じ日はありません。夏休みに参加した子が冬休みに参加すれば、雪景色に驚くことでしょう。

やまびこ挨拶は、単に大声を出すというだけでなく、子どもたちに五感を使って自然の変化を感じ取ってほしいという願いも込められているのです。



カンパン

非常食として全活動の持ち物に入っているカンパン。滅多に使わない（というより使うことがあってはならない）ものですが、過去には電車が止まったりした際に数回使用したこともありました。



保護者の方から、「安全第一に実施される活動において非常食はいりますか?」とよくご質問を受けますが、実はここにも私たち育てる会の願いが込められています。

1泊2日のキャンプであっても、それは子どもたちにとっては家庭を離れた非日常的な世界です。ですから、日常から離れる時は何があってもいいように、非常時の備えをする気持ちを持ってほしいと考えています。

将来、世界に目を向けて一人で出かける子どももいるでしょう。そうした時に大事なものは、様々な出来事を想定して、それに備える気持ちを持つことなのです。